

事業報告

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

富山西インターチェンジは、供用開始以来12年が経過し、周辺地域からの高速道路へのアクセスや物流の効率化、文化・観光の振興、広域医療の推進など地域の発展に大きく寄与しているところであります。

平成20年7月には、連結する東海北陸自動車道が全線開通されたことから、より一層の利便性の向上が図られているところであります。

こうした中、インターチェンジ周辺開発事業である企業団地への入居につきましては、第1期事業の金屋企業団地には、30社が、第2期事業の呉羽南部企業団地には、19社が入居しており、平成27年3月31日現在の入居率は100%を達成しております。

なお、当期分のインターチェンジ建設負担金預り金につきましては、金屋企業団地、呉羽南部企業団地の合計で107,836千円となっており、(独)日本高速道路保有・債務返済機構(略称：高速道路機構)へのNTT資金償還金に充当しております。

(2) 対処すべき課題

平成33年度までに償還予定のNTT資金の残額は、当期末で438,704千円となっており、償還金の財源である建設負担金預り金の確保のため、定期借地の賃貸企業に対する用地買取りの促進等についてより一層努力してまいります。

(3) 企業団地への入居におけるインターチェンジ建設負担金預り金の状況

	第18期まで	第19期	第20期	計
一括分譲	639,950千円	16,223千円	38,483千円	694,656千円
割賦分譲	15,524千円	986千円	986千円	17,496千円
借地	389,817千円	72,268千円	68,367千円	530,452千円
計	1,045,291千円	89,477千円	107,836千円	1,242,604千円

※各期千円単位で四捨五入しているため計が合わない場合がある